

秋期の死亡・重傷事故などの重大交通事故抑止対策

- 事故原因の中で安全確認不十分が多くなっている。
日暮れが早くなり、周りの安全確認がしづらくなっている事が考えられる。薄暮時間帯の赤色灯を点灯させた流動・駐留警戒を推進するとともに、暗い服装をしている歩行者等に対しては、その場で反射材を着用させるなどの被害者にならないための対策を推進する。
- 事故当事者は高齢者が多いため、引き続き高齢者安全・安心アドバイザーによる面接指導と地域警察官による巡回連絡を推進する。
- 重大交通事故が多くなる時期となることから、自治体等と連携した高齢者に対する体験型の安全教室等を推進する。

1 結果

令和7年10月から11月までの2か月間で、死亡・重傷事故の発生は4件であり、過去5年間と比較して同程度であった。

1件目 10／8 午後6時台 県道 重傷 68歳 女 対自転車
事故原因 安全確認が不十分だった

2件目 10／22 午後5時台 大仙市道 死亡 79歳 女 対歩行者
事故原因 安全確認をしなかった

3件目 11／18 午前8時台 大仙市道 重傷 56歳 男 対普通乗用
事故原因 安全確認が不十分だった

4件目 11／18 午前8時台 国道13号 重傷 52歳 男 対軽貨物
事故原因 スマートフォンを見ていた

2 取組結果

- (1) 過去5年間の春期（10月～11月）の重傷事故状況を記した地図を警察署ホームページに掲載し、注意喚起した。
- (2) 前記地図を地域警察官及び高齢者安全・安心アドバイザーに配付し巡回連絡等の際に活用した。
- (3) 交通安全講話、ふれあい塾等の際に、各学校、事業所等の周辺における交通事故状況を分析し、説明資料として活用した。
 - 高校生 1回
 - 事業所等 2回
- (4) キャンペーンにおいて、目的に応じて事故分析を実施し、資料として配布した。
 - 管内事故発生状況 2回
 - チャイルドシート・シートベルト非着用事故発生状況 1回

3 効果検証

- (1) 重傷事故等の発生時間は朝が2件、夕方が2件であった。
夕方の発生は被害者は自転車と歩行者で、いずれも道路を横断する際の事故であり、歩行者は反射材はつけていなかったことも原因の一つになったと思われる。
- (2) 夕方に発生した2件の交通事故は、いずれも高齢者が第1当事者になっており、危険を察知する視力や危険を察知した後の身体的な反応が衰えが原因となっている可能性がある。

冬期の死亡・重傷事故などの重大交通事故抑止対策

- 凍結路面や積雪路面による滑走やホワイトアウト等の影響による重大交通事故の発生が予想される。
国道や幹線道路の赤色灯を点灯させた流動警戒や駐留警戒を中心に、走行中のドライバーに対する見せる活動を推進する。
 - 事故当事者は高齢者が多いため、引き続き高齢者安全・安心アドバイザーによる面接指導と地域警察官による巡回連絡を推進する。
 - 冬期間は除雪車が早朝から日中にかけて作業することから、歩行者が除雪車に巻き込まれないように児童に対する除雪車に関する安全教室を実施し、被害防止を図る。
-
- 方針見直し等
過去5年間の冬期（12月、1月～3月）の重傷事故状況を記した地図を作成し、警察署ホームページに掲載する。その地図には、「ココジコ」に進めるQRコードを印刷し、全県の交通事故状況を確認しやすくする。